

## 1 本年度の学校評価をふりかえって

学校教育目標「人間性と専門性を磨き、社会・地域・文化に貢献できる自立した人材の育成」の実現には、社会に開かれた教育課程が欠かせない。しかし、コロナ禍にあつて、学院祭、PTA活動、学校運営協議会など地域社会とつながる活動が思うように推進できず、また、講師の先生方にご来校いただく機会も減少するなど、はがゆい運営を迫られた。そのような中でも、生徒は作品制作に励み、作品交流や展覧会の開催、各種コンクールへの出品と入賞、各種企業・団体との連携などにより、多くの社会貢献活動が実施できたことに感謝したい。特に卒業制作を終えた3年生に、「自らを律する心、感動する心などの豊かな人間性」「基礎的な知識や技能、活用力、思考力・判断力・表現力などの確かな学力」「前に踏み出す力や考え抜く力などの社会人基礎力」の向上がみられたことが成果としてあげられる。

## 2 評価結果の概要

分野	評価項目	取組状況と成果・課題	評価	改善策
教育課程・学習指導	自己有用感を醸成する教育活動の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動改善課題として、「自己有用感を高める工夫」を掲げ全職員で取り組んだ。授業での振り返りカードの活用を促し、生徒が授業の成果や成長を確認できる授業構築が進められた。</li> <li>・年2回の自己有用感アンケートからは、生徒がクラスや家庭で自己有用感を高め、良い関係性を築くことができたことがうかがえる。一方で、教師との関係の中では、自己有用感の伸びがみられず、数値が下がった学年もみられた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動改善課題を継続し、教員の勤務評価書と連動させて自己有用感を高める工夫を一層推進する。</li> <li>・生徒一人一人に活動をやり遂げさせ、達成感を得ることができるよう、研修会を開くなどして教員の意識を高めていく。</li> </ul>
	主体的な進路選択を目指す実践的な進路指導の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に三者面談、職業講座、マナー講習会、就職支援講座、インターンシップ、大学入学共通テスト対策、各種模試等を行い、多様な進路希望に応じて手厚い支援を行った。</li> <li>・今年度成長したことを聞くと、生徒・保護者共に「進路意識」を1番にあげた。継続的な進路指導の一定の成果であると考えた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路探求ワークを、より本校の実情に合うものに変えて、効果的に活用したい。</li> <li>・大学入学共通テスト対策課題が負担になっている生徒のために、個に応じた課題内容や量になるよう検討し、進路への主体的な取組を促したい。</li> </ul>
生徒指導	いじめ防止の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年5回のアンケート調査、生活満足度調査、個別の手帳等の活用により、生徒の内面をきめ細かく把握し、いじめの早期発見に努めるとともに、少人数であることを生かして個に寄り添う指導を推進した。</li> <li>・今年度はいじめ事案・人権事案ともに0件、アンケートで「SNSやネットの約束を守っている」と答えた生徒は95%であり、実際にネットトラブル事案は全くなかった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会執行部がリーダーとなって生徒総会等でいじめやSNS使用ルール等について話題とし、生徒が主体的に生活の向上に努めることができるようにする。また、各種調査や手帳の活用、個に寄り添う声かけを継続し、小さな芽を見逃さず、報連相で早期対応を心がけていく。</li> </ul>
	心身の健康増進の取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育授業の充実、体育的行事の充実、スクールカウンセラーの活用、新型コロナウイルスに関する講話の実施、保健室との連携、二者面談の充実、生徒指導部会での定期的な情報交換等を行い、健やかな身体と強くなやかな心の育成を図った。</li> <li>・学校生活への適応や基本的な生活習慣の確立、家庭や人間関係などにストレスや課題を抱える生徒が数名いる。また、今年度は新型コロナウイルスの影響からか、健康や体力に自信がもてない生徒が多くみられた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な分掌から様々な視点で、健やかな身体と強くなやかな心の大切さを訴えるとともに、自己有用感を高め、困難を乗り越えることができるよう教育活動を推進する。</li> <li>・必要に応じて担任や生徒指導部から声をかけ、スクールカウンセラーの積極的な活用を促し、個々の課題について解決していけるよう支援する。</li> </ul>
家庭・地域との連携	社会性を育む地域協働活動（美大附デザインラボ）の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から引き続き地域協働活動プロジェクト「美大附デザインラボ」を全校体制で組織的に推進した。</li> <li>・自衛隊秋田地方協力本部のマークや、医療システムソフトのロゴデザイン、秋田中央署の防犯ポスター、コクヨノートCampusの表紙デザイン、大仙市杉山田月山神社の天井画など、多くのデザイン等を採用していただいた。また、各学校との連携授業や国内外との作品交流、近隣の施設での作品展などを行った。また、銀線細工プロジェクトとして、生徒が継続的に銀線細工の技法を学んだ。これらの活動により、校外の方々との交流を通して、生徒の社会性が向上した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動内容を発信してより多くの方に美大附デザインラボを認知していただき、各種企業や団体等、地域社会に生徒の活躍の場を拡大したい。また、各種コンクールなどを積極的に活用し、より多くの生徒が自己有用感を高められるようにする。</li> <li>・銀線細工プロジェクトが、継続的な作品制作、さらに商品化と販売につながるよう軌道に乗せていく。</li> </ul>
	秋田公立美術大学との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学教員による年3回の連携授業とワークショップ、大学生によるシンポジウムなど、公立美大の協力により、学院生の専門性を高めることができた。また、大森山動物園プロジェクトでは、教授による指導の下、大学生と共に新たな活動内容を企画している。</li> <li>・公立美大への関心は高く、毎年一定数入学していることは成果としてあげられる。保護者アンケートでは、連携授業の充実や推薦枠の拡大を強く希望していることがうかがえる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公立美大との連携をより強め、大学教員や大学生の活動や作品から刺激を受けて専門性を高め、大学とともに、地域・社会・文化に貢献できる人材の育成に努めたい。</li> <li>・公立美大への進学希望を叶えられるよう、推薦枠の拡大等の要望申請を継続する。</li> </ul>